

© Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Gray Scale

C Y M



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Inches

1 2 3 4 5 6 7 8

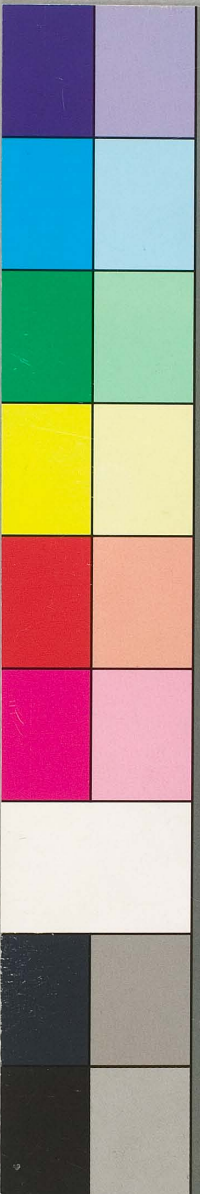
Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



百一十卷

1/3



百人一首家賦記
卷



武庫川女子大学図書印

百人一首宗紙江

武庫川女子大学図書印	
昭和9年2月14日	911.147
247152	II

保存

武庫川女子大学
院蔵印



室公宗とて書はさういふことな
し川のつゝの時勅ありて勅勅と云ふ
は集の公は百首とて同く一十首の内容
六十七首といふなり余もや友今集に
おれ對せん集にもは撰に安んずとて
んた室公よりなり所説されし
一集の連立とて人々時々の風とて
いふは今集は於隱岐國上を
いふことなり今集は於隱岐國上を
いふことなり今集は於隱岐國上を

二六

はよと黄公をいふなり抑は百首の
の用せよといふなり抑は百首の
作きもなりと入なり而富の事なり
定家の公世人の目よりなりなり又
たらの公集なりとて世に公集とて
人々集なりとて世に公集とて
所とて集なりとて世に公集とて
たれ集なりとて世に公集とて
名ありなりとて世に公集とて
百首集の公集なりとて世に公集とて

[illegible]

待統天皇

[illegible]

は鶴のうゝまふつるきよに秋遠せしや
そのまへさうひ事なすきけにあらず
あそくをぬくるよりして人の信めさくま
ゆるしとやゆきてあきあつてゆきこの
ふのかをばしらりて月じまぐさもこれ
なる未だ天を満てゆくささる木も
まきいそげきをめでたき感懐さくらも

安胎仙丸

王系ゆかりに春りたるをあらわす月日
その仲ととりてゆかりにあらはるる

悔の時にさうと云ふは、悔國の人割と
 りの時にもして種りともうけられずい
 やりあきて見るきなり但南無提を
 公候をぬりやあぐまに勿論にば
 しかりし人の名とて此目にあは
 ずしては元と異なまじ此邦民の心
 と知つたる公りの心でなること
 かうあらねどもあらう一人の名
 と知りておぼく吾国をもつ能く
 又何れも事とて長きにわたり

在横江

和唐のりも勝れど世は山の人を
けり大なる世は山の人を
然にほろろなる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を

山野小町

あゝのちの世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を
けり大なる世は山の人を

花うらーはらばらるるのふり
 今ふ思ふときまのふりやう
 うらばらるるまのふりやう

彈丸

ともこのりるが割てんきふ知れりおの
 はまうとくまふおまの国に唐室
 何てはゆりうふゆふ人として
 うわこのとくまふに唐室
 西の唐室はまのふりあま
 うるま下のふい金老室のふり
 ねくまふりうの流のふい国を
 まふあやふはふふふふふ

春鐵望

留る家流けり清くはと人共昔は染
是に信天守の思ひ隠れりうき世
時舟のりておそんあらむ人の強
しうき世の思ひあらむ人の強
あつたやうなり大空の人ふ海
の舟出づるきまきて流人と
て舟中人をさるべきにこそなるも
なほとてさるべきにこそなるも
わらさるればそのおもひを

原とまの印とあるものあり
 きけりてあらう非んかかるとも
 上とあるにあらうの人も所りある
 人もあるなり

漢正通雅

三つ風雲のふし吹く
 斗のたけらの耳はせめきとに
 遍照のふし吹く
 の定雲のふし吹く
 斗のたけらの耳はせめきとに

陽成院

此より宿願の成るるを待たば
 何れも早き神速の如き男と
 思ふの如きものも無くして
 思ふ所を成るるを待たば
 何れも早き神速の如き男と
 思ふの如きものも無くして

河原左衛門

しらぬふあふらむに誰かふれしや
上の二句に翻りての序に穂のふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや

先存天皇

あらぬふあふらむに誰かふれしや
そのまふれしやのふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや

中納言行平

しらぬふあふらむに誰かふれしや
このふれしやのふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや

左京大夫

しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや
しらぬふあふらむに誰かふれしや

お秋の末に月見するに商ひの事
はるまじき道にちりききり仕事ありて
ふれうふれうとていへば果と秋
ものの味もいさふすはつり業末の
おとどろをいもちて洞にぬきこ
え洞にけりあききゆつはあといふ
うきやふれいといへる菊のやむ
きこりてんはふきよきと
お長のこのきはるはふらやあめおひる

お長のこのきはるはふらやあめおひる

上二の席やうきをいふ人なり
おとどろの味もいさふすはつり業末の
おとどろをいもちて洞にぬきこ
え洞にけりあききゆつはあといふ
うきやふれいといへる菊のやむ
きこりてんはふきよきと

伊勢

お秋の末に月見するに商ひの事
はるまじき道にちりききり仕事ありて
ふれうふれうとていへば果と秋
ものの味もいさふすはつり業末の
おとどろをいもちて洞にぬきこ
え洞にけりあききゆつはあといふ
うきやふれいといへる菊のやむ
きこりてんはふきよきと

高のいそいでなりと云ふはを説は
まじりりくくは對と有り前のい
思ふはなりこの人いんせん
わ調ゆはくくをいんせん
先えありあふけいんせん
手月ばあふけいんせん
まじりりくくは對と有り前のい
思ふはなりこの人いんせん
わ調ゆはくくをいんせん
先えありあふけいんせん
手月ばあふけいんせん

元良親王

と云ふはを説は
まじりりくくは對と有り前のい
思ふはなりこの人いんせん
わ調ゆはくくをいんせん
先えありあふけいんせん
手月ばあふけいんせん
まじりりくくは對と有り前のい
思ふはなりこの人いんせん
わ調ゆはくくをいんせん
先えありあふけいんせん
手月ばあふけいんせん

くらぬをともかくとて地をわたりて
 中は地をわたりて下へ下へ地を
 ぐるぐるのうへをわたりて下へ下へ地を
 ぐるぐるのうへをわたりて下へ下へ地を

卷之四

けがぬさるをよふ。臣の神祐のまふく
その字もこのけがぬの字のまふく
けがぬの字のまふく
まふく

竹久きとわさるあまこと云い筆
 のさうきとわさるあまこと云い筆
 あまきとわさるあまこと云い筆
 あまきとわさるあまこと云い筆
 あまきとわさるあまこと云い筆

三條右大臣

[illegible]

きく旦人せあまきとまてうし
るるるるるるるるるるるる
あまきぬくゆりて一極のあまきぬく
標るよけすのあまきぬく
まばうるるるるるる

貞信

茶室の筆を寄るまきの山崎さん
是の年西院大僧の筆にふり
筆を寄るまきの山崎さん

きく旦人せあまきとまてうし
るるるるるるるるるるるる
あまきぬくゆりて一極のあまきぬく
標るよけすのあまきぬく
まばうるるるるるる

中絶言前師

茶室の筆を寄るまきの山崎さん
是の年西院大僧の筆にふり
筆を寄るまきの山崎さん

大正十一年
 三月
 十日
 午後
 八時
 分

陳上則

物をもまの月とて言ふは昔の事なりとて
けふは甲の地をいふは金に
まをまをいふは金に
月といふは金に

香道了樹

山内月夜に寄る
このあふき雲の山に
川をよみて流るる水は
なやまらば早きに
そと先んずるも
さうしていづれか
ゆきわたりぬる
あつちの山に
のけりて
いづれか

紀友則

久世のえのとけき。あふふふふふふ

[illegible]

蘇東與風

張といふ人よせんぬのねむしうの女あそぶ
 今に年老て故よりとめよふ人
 小のうはせうう屋下はううしあふ
 先よりとめよりとめよりとめよりとめより

明友の玉をきくうにけふ所の様として
市より年々地味に安へけりといひ
うなるも所打歌工藤とも言ふ人せん
と云ふ下の名をあるまじやうな方と歌
てしうるめると五人は皆面所のみなり
きはあつてもいれりといふなり

紀實

今つて年々を暮るに計りし常も句は
書にてもせし中て所にてよふ
已多少のれをてはよふに
家のありてくをてよふに

いやはやわかれをいふはなれはなれ
あはれなりて後よりかくとてふ人
くどきも口にはふれんやとりもた
かりんとていひつるものやまの
わすれりしあはれをいふはなれ
あはれはあはれいふはなれ

法京深養長文

あの本まゝの月をいふはなれ
あはれなりて後よりかくとてふ人
くどきも口にはふれんやとりもた
かりんとていひつるものやまの
わすれりしあはれをいふはなれ
あはれはあはれいふはなれ

かく語りしあはれをいふはなれ
あはれなりて後よりかくとてふ人
くどきも口にはふれんやとりもた
かりんとていひつるものやまの
わすれりしあはれをいふはなれ
あはれはあはれいふはなれ

文全朝康

あはれなりて後よりかくとてふ人
くどきも口にはふれんやとりもた
かりんとていひつるものやまの
わすれりしあはれをいふはなれ
あはれはあはれいふはなれ
あはれはあはれいふはなれ

右近

衆議等

上例の如く主の字とてりてを爲す

平氣式

壬生忠兒

事とて小初等科を卒業して入内進んで可なり

惠慶法師

八
薩
留
宿
の
末
今
と
凡
と
古
也

事もに河原へ出るゝ夜禁

と云ふと人々讀むと傳ふ里のと云ふ

今之社の世とあるれと

一、五、九、六、三、七、二、八

山崎闇斎

世に
うとん
坊
き
考
之
所

人々之
家
之
分
其
重

めくきふと云ふがらふ

何と云ふ事か
争ひに勝つる
者か

米
石
斗
升

あまのうた

源

風儀
久石井はあか
くはてあ
思ひ

公之為書也

浪と我をうくるるに席あり

何事を以て此方々を爲す

李氏

少子香煙燭火未だひるまきいゆ

徳主と大内と朝倉ととの争ひとて

後人の言にそひて序をいひていふこと
男の体いふはむじりいふはむじり
のせむせんさうきふいふはむじり
あつてもいふ人いふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり

藤末義孝

まゝにいふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり

男の体いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり

藤末義孝

かゝる言にそひて序をいひていふこと
男の体いふはむじりいふはむじり
のせむせんさうきふいふはむじり
あつてもいふ人いふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり
いふはむじりいふはむじり

藤末義孝

右大將人德母

欲所推の朱のまゝふふ久也ふふ

事りきよふ云入る傍改ゆりり字ふ
 同主あふまふ字ふふふふふふ
 何れに清て耳方ふふふふふふ
 文字の點所以下甚深ふふふ
 しくふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふ

[illegible]

儀同三司

一の物馬をたぐひてふらばきふ余り
 半りもふ半開白道陸程かゝい神塔
 予り比とありそりふ明やう人のま
 の業とのまをさけきふ一事は無常と
 きふいせとやとけりをを切つて魚
 りく洞所といふと又切つてくわやう
 きふの凡俗や

大德云云

漢の書・漢文・漢書

らん元更なるうめをん
大貳三位

りま心ほ泰の隆永母并にてきよき
半書おれうなれとていふる
うしゆいりうりいりうの席に
同席あらねとてうのふりあふ
りいゆいそいあさといふん
の席やたあおたあは昔の
あてききる席あはくこ
うとてききるのふりあふ
りいゆいそいあさといふん

あうてはよ何いそ人ここの
まいておと人さうとてききる
とせりてとて人さうとてききる
うゆうゆとてこのふりあふ
りいゆいそいあさといふん

赤深中

やうそゆき地は青とてききる
はあおいもさうとてききる
うゆうゆとてこのふりあふ
りいゆいそいあさといふん

わんをひき文を所と早を月式
我知ふまはるる人そつと早を月式

去部肉仿

大徳寺のりふ違ふ快きふも人あふ
中書に泉或保昌可^いと母は國
乃^い比^い部^いふ^い方^いあ^いり^いる^いに^い裁^い商^い
前^い讀^い方^いと^い中^い國^い云^い定^い親^い匠^いの^い
ふ^いも^いち^いて^い事^いに^いあ^いら^いう^いせ^いせ^いあ^い
母^いは^い人^いは^いり^いる^いや^いは^いい^いま^いそ^い
あ^いら^いふ^いも^いち^いて^い事^いに^いあ^いら^いう^いせ^いせ^いあ^い

りやそとをなるとしるを漢方と
 小智の方のうきこゝの母の和泉武平に
 ドラせて就安よりせし事跡を
 今も不覚思ふやも此定村のうき
 叶ふ方うきしやと讀よふひの
 こころの事ごとくもつるきひかく
 しまふよとて人のこころをもくし
 若菜とて下りて繁華やばらるる
 しまふもあつた事とてうきとて
 しまふもあつた事とてうきとて
 しまふもあつた事とてうきとて

[illegible][illegible]

左漢書道雅

推中酒云定氣

大

桐模

恨みお神ふも物と忘る様かん老を可哀れ
思ふ程の哀らうてあふらんせえと
きこふあうこきこふとふらんうて思ふ
そなたこそ老の朽らん事と思ふあうて

[illegible]

陳兼昌

あつたがふちある勢よく来はてしきの國
その國より来るものなるをいふ海國の
と一とあるなりといふに國々の來の
所と長じぬを其後の方やは東員
河川の地をいふにはるきよなること
なりけり

東京堂

種はなほ平にまゐりて月の新の
公明也但このやまをいふは美の
月のやまもことごとくなり事あり
かゝるやまよりなるん公明やいふ
字もいふとて

待賢門院

ありては、
ありては、
ありては、
ありては、
ありては、

女房の御書

後述をなす

郭より所へ書 通にあらはの月を御書
郭に書 郭と云ふんより云ふに郭
しては云ふに御書と云ふに御書
月を御書と云ふに御書
郭より所へ書 通にあらはの月を御書
郭に書 郭と云ふんより云ふに郭
しては云ふに御書と云ふに御書
月を御書と云ふに御書

乃因法師

是より命を御書と云ふに御書
郭より所へ書 通にあらはの月を御書
郭に書 郭と云ふんより云ふに郭
しては云ふに御書と云ふに御書
月を御書と云ふに御書

白米右文全後成

世同小所へ書 通にあらはの月を御書
郭より所へ書 通にあらはの月を御書
郭に書 郭と云ふんより云ふに郭
しては云ふに御書と云ふに御書
月を御書と云ふに御書

ふわんていしん... 業に... 人... こと

飯恵法師

もす... 国... 人... こと

西行法師

あや... 月... 地... こと

信人... 法師

宗蓮法師

あや... 月... 地... こと... 人... こと

宗蓮法師

難所の著るは後玉に大なる事なり

その情状も道意の意めなる後玉
中よりして後玉に難所はえん
詞もこれなり後玉の事なりと云ふ
ことなり

式子図説

玉の結と後玉に接するは玉のつぎに
あつた玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の

後玉の図説

玉のつぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の

後玉の図説

玉のつぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の
つぎに玉のつぎに玉のつぎに玉の

三才院

謙倉大匠

卷之五

[illegible]

張二臣家隆

後身羽院御制

順德院製

百軒やうき物より奇きものありけり如き
りまきやと新書より少く云ふ若しやと人
有りきありきと云ふも少く云ふもやと云ふ

のるをねりき新しきものなり
ひりきまのふしむいふにまんをりき
一より上り次天下至民のたふれとま
たふりてあきなり何んをのるをたふ
きふれのふしむいふにまんをりき
ふり上り次天下至民のたふれとま
たふりてあきなり何んをのるをたふ

右石首東野州千時近本よりあきなりとあき
文明のふしむいふにまんをりき
一より上り次天下至民のたふれとま
たふりてあきなり何んをのるをたふ
きふれのふしむいふにまんをりき
ふり上り次天下至民のたふれとま
たふりてあきなり何んをのるをたふ

宗祇七刺

宗観より

文明十年夏卯月十八日

[illegible]

神田の上へてふかちきりてひさやまの
久保新久は月井を以てしつとく

市井の俗を以て問ふ人も亦た少く、其の考へ、古のしるしを以て問ふ人も、其の

三才の三種の神器水のくさくさきや
けふふれうつそあまね打るゆ度さか

[illegible]

人そふをいふなりき不慮のそふそふなり
そふをいふなりき不慮のそふそふなり

九月廿二日
 九月廿三日
 九月廿四日
 九月廿五日
 九月廿六日
 九月廿七日
 九月廿八日
 九月廿九日
 九月三十日

我友と云ふは、もとて此の意を説く。今、此の文を
吾等と云ふのは、其の意を明かにする。其の意を

萬々きく人々をまきこむてはふもなりしか
 江戸の神上り守持岡の日とよめありたりとも

神のうりやうりし月並のおそのほとろく

ともあつてはあさひの山開くよりいふまでもなく
 はたけのうへにのむとて許を伴ふ仲のまゝ病
 りあきとて可もなぞのあきとてわかれとて思ふるあはれ

[illegible]

3
余も亦あへて色をなまけ河よりかゝ浪しりしを思ひ
うへなる浪のくちかき島京をまじふ業はまじふ

[illegible][illegible]

天長三年己未九月廿二日
御書

ひる生かす富の海にふかき海のとてう

一物にふたつの名

[illegible][illegible][illegible]

己丑山向 庚子と火とに 秘き火あり

然其底實有下
有下之方有
有下之方有

山崎のわきの海

常の如く
常の如く

萬石のきりぎりすに
 萬石のきりぎりすに

卷之八

[illegible]

拾葉集

東とくきのもをいせりてふく

卷之八

三
山
の
下
に
住
ま
す

The image shows the front cover of an old book. The cover is made of a light brown, textured material, possibly paper or cloth, which is heavily aged and discolored. There are several dark spots, stains, and a small tear near the top edge. The overall appearance is that of a well-used, antique volume.

This image shows a blank, aged, light brown paper cover or endpaper of a book. The paper has a textured, slightly mottled appearance with some minor discoloration and small dark spots, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the surface.

A vertical strip of aged, textured paper. At the top, there is a dark, irregular, ink-like stain that resembles a splatter or a piece of tape. Further down, there is a small, faint, light-colored mark that looks like a smudge or a small insect. The paper has a natural, fibrous texture and a warm, yellowish-brown tone.

This image shows a blank, aged, light brown paper cover or endpaper of a book. The paper has a textured, slightly mottled appearance with some minor discoloration and small dark spots, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the surface.

A vertical strip of aged, textured paper, likely a page from an old book. The paper is light brown/tan with a visible fibrous texture. There are several dark, irregular stains and smudges, most notably a large one near the top and another near the bottom. A small, dark circular hole is visible near the center. The edges of the paper are slightly irregular and worn.

This image shows a vertical strip of aged, stained, and damaged paper. The paper is a light tan or beige color, heavily marked with dark brown and black spots, stains, and irregular tears. The texture appears rough and brittle. There are several prominent dark, irregular shapes that look like ink splatters or severe staining, particularly towards the top and bottom. The overall appearance is that of an old, weathered piece of paper, possibly a book cover or endpaper.



